

2024年度

事 業 報 告

(2024年1月1日～2024年12月31日)

公益社団法人競走馬育成協会

2024 年度 事業報告

公益社団法人競走馬育成協会

概況

近年、世界規模での異常気象とこれを一因とする自然災害の多発、パンデミック、各地で勃発する紛争などが、我国における為替リスク、不況や物価高騰の形で市民生活に影響を及ぼしている。このような状況にあっても日本の競馬は着実に開催を継続し、順調に売り上げを伸ばしている。

競走馬育成協会は、コロナ禍により数年にわたって活動に様々な制約を受けてきたところであるが、2024 年は社会状況に配慮しつつもコロナ前とほぼ同様の体制で、育成調教技術の向上を通じて競馬と地域社会の発展に資すべく諸施策にあたったので、以下に報告する。

1. 軽種馬の育成調教技術の向上に関する普及、啓発及び指導

1) 育成技術講習会の開催（公益事業）

JRA および公益財団法人軽種馬育成調教センター（BTC）との連携・共催による講習会を、会員のみならず一般からの参加も得て全 5 地区で開催した。なお、北海道地区については内容の一部が暑熱対策に関するものであったことから、2023 年の 10 月から 6 月に変更して実施した。

また、JRA 日高育成牧場主催の「強い馬づくりのための生産育成技術講座 2024」を北海道地区の牧場に、JRA が主催する馬のハンドリング講習会を関東地区会員は春季に、関西地区会員には秋季に各々案内した。

2) 競走馬育成調教技術表彰事業（収益事業等）

競走馬の育成調教の技術向上、育成調教者の経営基盤強化および意欲増進を図るため、成績優秀な競走馬の育成者を表彰した。褒賞金が一律 10 万円となったことに伴い、ダービー開催までの 1 月 1 日～5 月 31 日を上半期、6 月 1 日～12 月 31 日を下半期として 2 回に分け、各支部あてに表彰状の送付と褒賞金の振込を行った。

対象 565 競走のうち、58 会員の育成馬が優勝した 351 競走について表彰を実施した。該当率は 62.1%、とくに 2 歳新馬競走で 77.4%、2 歳重賞・リステッド競走では 80.0%と引き続き高い水準にあり、会員が業務に精励した成果が表れた。育成協会会長表彰の対象である 2 歳ステークス競走 6 競走（札幌・函館・新潟・小倉・京王杯・デイリー杯）では、4 競走で会員の育成馬が優勝した。

	表彰対象 競走数	前年比	会員優勝馬 表彰該当数	前年比	該当率	前年比
3歳新馬競走	45	±0	40	+3	88.9%	+6.7P
2歳新馬競走	257	±0	199	-16	77.4%	-6.3P
2歳重賞 ・リステッド競走	20	±0	16	-3	80.0%	-15.0P
3歳以上重賞 ・リステッド競走	177	-1	70	-8	39.5%	-4.3P
障害重賞競走	10	±0	1	+1	10.0%	+10.0P
上記以外の 平地オープン競走 (2・3歳限定を除く)	56	-1	25	±0	44.6%	+0.7P
計	565	-2	351	-23	62.1%	-3.9P

2. 軽種馬の育成調教に関する調査及び研究（公益事業）

競走馬の育成調教技術の向上と牧場環境の改善に資するため、育成牧場における調教、施設、経営、人材の実態を調査した。なお、過去の調査結果は協会ホームページに掲載し、公表している。

3. 軽種馬の育成調教に係わる人材の確保・養成に関する支援（公益事業）

1) 生産育成調教牧場への就業者参入促進事業（BOKUJOB）

競走馬の生産育成分野で働く人材の確保を目的とし、当協会をはじめとした5団体で構成する牧場就業促進事務局（BOKUJOB事務局）が事業を行った。

2024年度は、「BOKUJOB 関西フェア」を5年ぶりに実施するとともに、「ウェブサイト運営」、「BOKUJOB メインフェア」、「サポートデスク」、「牧場で働こう見学会」、「牧場で働こう体験会」および「研修コース合同見学会」などを計画のとおり実施した。

① 牧場就業促進ウェブサイトの運営と保守管理

BOKUJOB ウェブサイトの訪問者数等は、スマートフォンからのアプローチを容易にした2020年以降の高水準を維持し、75%以上がスマホ利用者であった。

	延べ訪問者数	新規訪問者数	新規訪問者数 スマホ利用者内数	スマホ利用率
2024年	232,022	156,447	119,020	76.1%
2023年	231,554	160,528	121,161	75.5%
2022年	260,462	164,645	124,402	75.1%
2021年	274,561	186,256	140,402	75.4%
2020年	203,603	136,393	107,416	78.8%

2019年	138,613	84,618	64,592	76.3%
2018年	115,610	69,355	50,279	72.5%
2017年	133,912	81,357	54,151	66.6%
2016年	148,923	88,473	54,641	61.8%
2015年	160,488	87,994	51,302	58.3%
2014年	157,194	54,585	28,722	52.6%

※ 2018年は1~10月の旧サイトと11~12月の新サイトの合計

② メインフェア

生産・育成牧場の採用担当者や研修機関の担当者から直接話を聞く数少ない機会であることから、多数の来場者が熱心に就業相談や進路相談を行う姿が多数見受けられ、参加者の意欲の高さが窺われた。

- ・実施日 2024年6月1日（土）、2日（日）
- ・実施場所 JRA 東京競馬場フジビュースタンド1階イーストホール
- ・参加牧場数 32 牧場（Web 参加も含む）
- ・参加団体数 6 団体（研修機関等）

年	対象者					保護者 学校関係者	見学者	受付来場者 合計
	小学生 中学生	高校生 高専生	大学生等	社会人 その他	計			
2024年	19	56	86	93	254	128	104	486
2023年	12	64	58	98	232	121	100	453
2019年	15	50	49	63	177	86	6	269
2018年	21	38	48	35	142	30	82	254
2017年	—	34	69		103	44	48	195
2016年	—	50	73		123	61	70	254
2015年秋	—	36	50		86	34	200	320

③ 関西フェア

JRA 京都競馬場において5年振りに再開した。2019年までは6月にJRA 阪神競馬場で実施していたものを、場所と時期を移して開催した。GI競走施行週ではなかった（2019年までは宝塚記念週）こともあって参加者数は前回よりも減少したものの、参加者1名当たりの相談件数は大きく増加し、生産・育成牧場や研修機関の担当者から直接話を聞ける数少ない機会を活用しようとする参加者の高い意欲を窺わせる結果となった。

- ・実施日 2024年10月26日（土）、27日（日）

- ・実施場所 JRA 京都競馬場ステーションサイド3階
- ・参加牧場数 18 牧場
- ・参加団体数 5 団体（研修機関等）

年	対象者					保護者 学校関係者	見学者	受付来場者 合計
	小学生 中学生	高校生 高専生	大学生等	社会人 その他	計			
2024 年	8	25	22	52	107	43	—	150
2019 年	25	34	28	77	164	74	6	244
2018 年	33	32	22	29	116	70	71	254
2017 年	—	38	40		78	45	71	194
2016 年	—	29	40		69	48	57	174
2015 年秋	—	32	37		69	45	118	232

④ サポートデスク

競馬場等の JRA 施設、インターハイ馬術競技大会会場（静岡県）、日本学校農業クラブ全国大会（岩手県）に加え、ノーザンホースパーク（北海道）や JRA 馬事公苑（東京都）の馬術競技会場にサポートデスクを設置し、BOKUJOB 活動を広報するとともに、牧場就業や研修・進路に関する相談を受け付けた。

実施場所	開催日	来場者			
		2024 年	2023 年	2022 年	2021 年
JRA 小倉競馬場	7 月 13～14 日	55	38	43	-
御殿場市馬術スポーツセンター (インターハイ馬術競技大会)	7 月 24 日	31	15	42	46
ノーザンホースパーク	8 月 7～9 日	76	143	458	-
	9 月 27～29 日	36	※2 回 実施	5 回 実施	
JRA 宮崎育成牧場	8 月 12 日	38	200	-	-
JRA 中京競馬場	8 月 31 日～ 9 月 1 日	24	68	44	-
JRA 栗東トレーニング・センター	9 月 23 日	36	-	-	-
日本学校農業クラブ全国大会	10 月 23～24 日	150	140	175	176
JRA 馬事公苑 (全日本学生馬術大会)	10 月 31 日～ 11 月 3 日	50	52	-	-

※2021 年よりサポートデスクを順次再開。

⑤ 牧場で働こう見学会

牧場ででの就業を希望する学生・生徒とその保護者などを対象に、JRA 美浦および栗東トレーニング・センター周辺の育成牧場で施設見学と質疑応答を行う見学会を実施した。

- ・ 関東地区 3月9日（土） 参加者数 26組 33名

見学牧場：ビッグレッドファーム銚田トレーニングセンター、
KSトレーニングセンター、松風馬事センター

- ・ 関西地区 3月16日（土） 参加者数 27組 36名

見学牧場：グリーンウッドトレーニング、信楽牧場、ノーザンファームしがらき

⑥ 牧場で働こう体験会

5泊6日の日程で牧場の仕事やBTC、JBBAの研修体験、施設見学等の機会を提供した。

- ・ 7月28日（日）～8月2日（金） 参加者数 15名

・ 体験受入牧場：ビクトリーホースランチ、杵臼牧場、谷口牧場・浦河育成センター、
笹島智則牧場

⑦ 研修コース合同見学会

牧場ででの就業に必要な技術や知識の習得を目的にBTCやJBBAでの研修受講を検討している者を対象に、合同見学会を実施した。各回とも、研修施設の見学、教官や研修生との交流を通じ、研修を具体的にイメージできるような内容とした。

- ・ A日程 7月18日（木）～19日（金） 参加者数 32名

- ・ B日程 8月15日（木）～16日（金） 参加者数 29名

- ・ C日程 9月22日（日）～23日（振休・月） 参加者数 20名

⑧ Web相談会、Webフェア

Webを使用した相談活動は、遠方に在住している、日程が合わない等の理由により、対面式の相談活動への参加が困難な就業希望者に対して浸透・定着した施策であることから、引き続き実施した。

- ・ Web相談会

Zoomを使用した個別面談形式の相談会を引き続き実施した。

- ・ Webフェア

イベントとして広報展開を実施するとともに、牧場・団体が集中的に参加し、Zoomを使用して実施した。

- ・ 実施日・場所：11月9日（土）・10日（日） 競走馬育成協会（新橋）

- ・ 方 式：特設マッチングサイトによる個別面談（1面談約30分）

- ・相談希望者：27名（うち24名が延べ98面談）
- ・参加牧場数：11牧場
- ・参加団体数：4団体（研修機関等）

⑨ BOKUJOB YouTube チャンネル等広報活動

i) BOKUJOB YouTube チャンネル等

牧場就業希望者が牧場就業に関する検討を深めるための資料として、「君を競走馬に」等の映像コンテンツを制作し、配信した。

ii) 「BOKUJOB X」等の SNS

BOKUJOB の公式 SNS (X、Instagram、Facebook) を通じ、フェアの実施、参加牧場と団体の紹介、各種イベントの募集等を告知するなど、積極的な情報発信に努めた。

iii) 地方競馬場での協賛競走

BOKUJOB 活動を広く周知し、認知度の向上を図るため、地方競馬場で協賛競走を実施するとともに、BOKUJOB プロモーションビデオを放映した。

- ・実施日：2024年10月3日（木）
- ・競走名：門別競馬場第11競走「BOKUJOB 特別」

2) 担い手育成事業

① 修学奨励金交付事業

BTC 育成調教技術者養成研修の2024年度入講生4名、公益社団法人日本装蹄協会の2025年度装蹄師認定講習会入講予定者1名の計5名に対し、修学奨励金を交付した。

② 生産育成技術者海外派遣研修事業

円安や物価高騰に伴う研修参加費用の増額に対応するため、海外研修に係る諸経費の補助率を1/2から7/10に改定し、海外派遣研修参加者の負担軽減を図った。

長期研修のうち、生産育成技術者養成機関の研修修了生を対象とした研修は、BTCからの推薦予定者2名に対して面接による選抜を実施する計画であったが、研修先のアイルランド競馬学校(RACE)の施設改修工事のため、また協会会員や会員牧場の従業員などを対象とした研修は応募が無かったことから、それぞれ実施を取り止めた。

短期研修は、協会会員や会員牧場の従業員などを対象にアメリカ合衆国派遣を計画したが、最少催行人員数に達しなかったため、実施を取り止めた。

4. 軽種馬の育成調教に係わる競争力の向上に対する支援（収益事業等）

1) セリ市場の振興

若馬育成調教の成果が反映されやすい2歳トレーニングセールを対象に、地域団体による後援や実務援助を実施した。

2) 育成調教施設等の整備に対する助成事業

① 軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

育成施設の整備等を目的に会員が受けた融資の利子負担軽減を図るため、公益財団法人全国競馬・畜産振興会から軽種馬生産育成強化資金を受け、2024年度は新規案件1件を承認、継続案件19件について利子補給を実施した。

② 競馬関連機材等有効活用事業

JRA等で使用しなくなった競馬関連の機器・資材などを会員に斡旋し、有効活用した。2024年度は2回の抽選会を実施し、3月には発馬機5台、トラクター4台、障害柵1セット、ハロー類1台の合計11件について募集を行い、全件の引き取りが完了した。また、10月には発馬機2台、車両2台、障害柵5セット、ハロー類5台の合計14件について募集を行い、13件の引き取り対象者が決定した。

③ 畜産近代化リース事業

公益財団法人畜産近代化リース協会の行う畜産リース事業について、2024年度は会員からの1件新規案件の申請があり特認審査を行った（2018年以来）。

3) 飼料等高騰緊急対策事業（収益事業等）

馬の繋養に必要な飼料、敷料、資材の価格高騰による負担を軽減することを目的に年度毎に実施する事業。2024年度についても申請のあった正会員184件に対し、審査を経て1会員あたり給付金36万円を交付した。

5. 軽種馬の育成調教に関する情報発信（公益事業）

協会誌「いくせい」の62号（12月1日付）を発行し、会員に競走馬の飼養管理や育成技術の向上に役立つ情報を提供した。また、協会ホームページ等を通じ、育成調教に関する情報を発信した。

6. 軽種馬の育成調教に係わる国際交流（公益事業）

軽種馬海外流通促進連絡協議会に参画し、関係者との情報交換を行った。

7. 協会の運営、組織、その他必要な監査等

1) 定時総会

2月16日14:00～ 日本中央競馬会 新橋分館4階会議室

議案：2023年度事業報告及び財務諸表について

2024年度会費等の額及び徴収の方法について

理事の選任について

2) 理事会

① 第1回理事会（定例）

1月26日 14:00～ 新橋分館 4階会議室

議案：2023年度事業報告及び財務諸表について

2024年度定時総会の開催について（日程、場所、提出議案）

2024年会費等の額及び徴収方法について

理事の選任について

2024年度定時総会における議決権行使書及び委任状の取り扱いについて

2024年業務委託費の配分方法について

報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告について

③ 第2回理事会（臨時）

2月16日 13:00～ 日本中央競馬会 新橋分館 4階会議室

議案：2024年度定時総会における「委任状」の取り扱いについて

組織規程の改正について

④ 第3回理事会（定例）

12月6日 14:00～ 新橋分館 4階会議室

議案：2025年度事業計画及び収支予算について

⑤ 入会の承認に関する臨時書面理事会

2月13日 1件

4月18日 2件

7月11日 1件

8月7日 1件

12月9日 1件

12月13日 1件

3) 育成等に関する懇談会

9月27日 10:00～ JRA 本部 4階 403 会議室

懇談内容：JRA からの報告事項

- ・セリ市場の動向について
- ・馬産業の人材不足への対応
- ・その他

：競走馬育成協会からの報告事項

- ・要望と提案事項
- ・育成牧場における人材確保について（BOKUJOB 活動状況報告）

4) 協会の組織

① 会員数の動向

	北海道	東北	関東	関西	九州	計	賛助会員
2023年12月31日	81	11	49	30	17	188	8
増加	1	0	1	3	1	6	0
減少	2	0	1	0	0	3	0
2024年12月31日	80	11	49	33	18	191	8

② 役員の動向

2024年度は、小鹿理事が2月16日付で就任した。

会長理事	大平 俊明	非常勤	
副会長理事	和田 信也	常勤	(常務理事兼務)
副会長理事	中内田克二	非常勤	
理事	飯田 正剛	非常勤	
理事	荻野 豊	非常勤	
理事	岡田 紘和	非常勤	
理事	小鹿 俊秀	非常勤	(2月16日就任)
理事	沖崎誠一郎	非常勤	
理事	柏木 務	非常勤	
理事	宮島 成郎	非常勤	
理事	織田 信美	非常勤	
監事	五島 崇	非常勤	
監事	岩崎 幸治	非常勤	

③ 職員等の動向

2024年3月1日	転出	転入
総務部長	太田 啓	西尾 章
上席調査役		成田 正一
主任調査役		富塚 貴秋